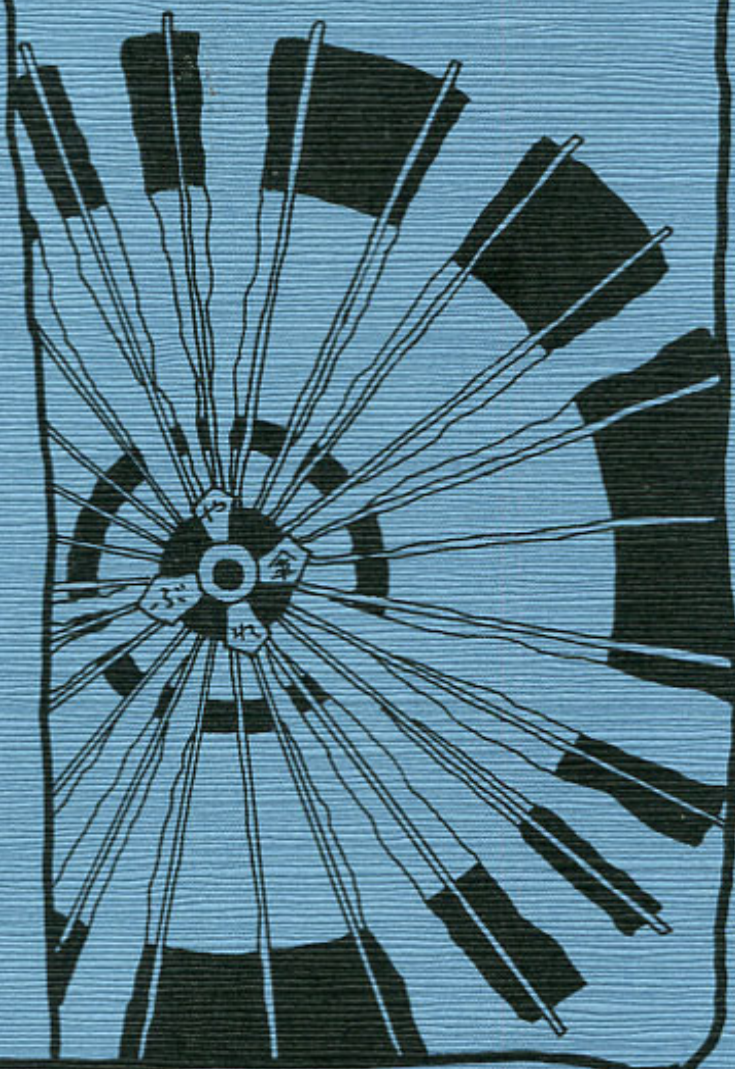


やぶれ傘



七十九号

二〇二四年八月

どこからとなく舟虫の散らばれる	根橋宏次
風なきにしもあらず胡麻咲きにけり	大島英昭
駄菓子屋の棚のでこぼこラムネ飲む	きくちきみえ
電柱に標す海拔草いきれ	丑久保勲
昼顔や「団結」の文字残る壁	瀬島酒望
梅雨空を囁むかに河馬の口開く	安藤久美子
どんと波来て船虫の消えにけり	廣瀬雅男
夏蓬待ちたる雨の来たりけり	白石正躬
乾きたる土に足跡芥子の花	藤井美晴
二度三度日傘同士が頭下げ	久世孝雄
走り梅雨海の匂ひの雨が降る	國保八江
向日葵や河川の護岸工事音	渡邊孝彦
マスクメロンやもめの義弟より届く	有賀昌子
風見鶏ピクリともせぬ暑さかな	松村光典
石なげて月のみちんや梅雨の池	忽那みさ子

抄 集 句 傘 れ ぶ や

大崎紀夫選

チューニング合はぬラジオや明け易し	小山陽子
ただ一花なれど我が物わが皐月	武田紀久
イーゼルの置かれてゐたる夏木立	時田義勝
暗闇に一筆書きの蛍かな	野口朝世
青胡桃ここより沢の出入口	萩原溪人
窓ガラス影絵のとき守宮かな	濱野新
蜘蛛の囲の雨の湿りに歪みをり	広瀬 济
炎昼を亀の横切る一車線	青谷小枝
水まきのホースのねちれ庭石菖	天野美登里
五月雨や重き音する大時計	安斎正蔵
牛の尾がゆるりと払ふ尻の蠅	石原健二
明易し軒にばさりと大鴉	岩藤礼子
目を凝らしめだかの稚魚を数へけり	枝みや子
虹色の木を描く子ども夏の昼	岡田香緒里
守宮みて窓辺の灯消しがたく	奥田温子

夏蓬

白石正躬

畑に敷く麦藁は陽の匂ひして
休校日ほたる袋の傾ぐまま
新緑のしづくばらばら受けにけり
夏蓬待ちたる雨の来たりけり
だんだんと近づいて来る雪加かな
戸を明けて沙羅の白さをながめけり
郭公や晴れわたりたる湖の朝
炎天の下を山風来たりけり
鳥声のやみたる午後の夏木立
夏葱をうゑし畑に日照雨かな

芥子の花

藤井美晴

老い猫が散り敷く沙羅を踏んで来る
乾きたる土に足跡芥子の花
草刈つてゐるらし草の匂ひをり
雨上がりキヤベツの玉のほぐれたる
鯉の尾の水叩く音木下闇
欄干に依りて団扇を使ひをり
瀬のしぶき受けつつほたるぶくろかな
茗荷の子雨は茗荷の葉をつたひ
白シャツを干して舩を舫ひたる
干し物の影は露台を移りけり

日傘

久世孝雄

一服す腰の蚊遣りの火を借りて
この時期の庭の玉座に濃紫陽花
下校の子七夕竹を振りながら
シャワー浴び二階より見る夏の月
昼寝覚め缶コーヒーを一気呑み
桑の実の紫色を二つ三つ
帰省子の顔舐めまはす座敷犬
雲の峰工事現場に火花散る
梅雨明けの空を一巡鳩の群れ
二度三度日傘同士が頭下げ

合歡の花

國保八江

走り梅雨海の匂ひの雨が降る
空あをく紫陽花あをき瑞泉寺
側溝に水音のして額の花
遠く鳴く鴉泰山木の花
プランターに実りし茄子を挽ぎにけり
空蟬を碎きて子等のおままごと
山風の海風となる梅雨晴れ間
木洩れ日の匂帖に揺るる合歡の花
梅雨明けの朝日差し来る青畳
菩提寺の山門に入り花ざくろ

向日葵

渡邊孝彦

土手の木にTシャツ干され姫女苑
走り来る池のさざなみ松落葉
あかときに十一鳴いてそれつきり
草刈られ土手道先へ伸びにけり
ニユース見る出窓の外に額の花
菖蒲田の水路の亀は頭上げ
お向かひに庭師の影や凌霄花
向日葵や河川の護岸工事音
石拾ふサツカー部員百日紅
子供土俵作り替へられ花木種

メロン

有賀昌子

匙の上プリンの揺るる夕薄暑
ネモフィラ咲く丘に夏帽飛ばしけり
花うばら川音近く聞こえけり
靄深く山深くなる九輪草
若竹のひと叢みぎに磴のぼる
もつれ飛ぶ夏蝶地蔵堂の前
マスクメロンやもめの義弟より届く
皿に置く小舟のやうなメロン揺れ
夾竹桃ラジコンヘリの旋回す
白百日紅推理小説読みをへる

ジ ム

松村光典

甲羅干す男ありけり梅雨晴れ間
立ち並ぶカメラの彼方赤シヨウビン
梅雨晴れてガラスのビルに映るビル
梅雨明けにセルビアからの友来る
風ありて雷雨のありて晴れあがる
風見鶏ピクリともせぬ暑さかな
ジム帰りたうもろこしを求めけり
汗だくでジムに出かけて汗をかく
片陰に潜みて信号待ちにけり
年のせい暑さのせいと過ごしをり

香り たつ 月下美人の ひとよ 夜かな
 梅の実の 育ち 盛りを 収穫す
 黒日傘 たたみて こそぼす 日のほてり
 道を しへ 札所へ 続く 鄙の 径
 荒梅 雨の 竹百幹を なぶり けり
 夕月の かかる 茅の 輪を ぐり 抜け
 傘置きに 傘の あふれて 半夏生

菊池ひろ子

風車 まはる 地蔵の かたえ 傍かな
 からす 翔ち ばつさと 桑の実の 落つる
 白鷺の あまたの 止まり 藪へ こむ
 蜘蛛の子の 風の 広さに 散り 始む
 花などは 気にも かけずに 露を 伐る
 夏至の 日や 川にかぶさる 木々の 枝
 薫風 や 父と 娘の 砂遊び

菊地葉子

忽那みさ子

石なげて月のみぢんや梅雨の池
さうめんじに紅のいつぽん風通る
蟬しぐれ野良着を洗ふ金盃
打ち上げの花火タンカー浮き上がる
遠雷やびくりと動く河馬の耳
大夏野小さきふぐりを晒しけり
手さぐりの明日が続く冷奴

黒木東吾

檉若葉ぼつりぼつりと雨の来て
段々と濃くなる木下闇を行く
風薫る雑踏に居て一人ぼち
山菜の天婦羅に塩男梅雨
噴水は煙のごとし昼下り
武蔵野の入道雲に囲まらる
茉莉花の廊下の隅に咲きにけり

◇ 9月・10月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
9月	2日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保 八江
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	3日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	27日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
10月	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(月)	PM7:00	ぎんなん会	市民会館うらわ	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保 八江
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	19日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市見沼	丑久保 勲
	25日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

10月3日のなごみ会は市民会館うらわ505集会室。

10月19日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR京浜東北線北浦和駅改札口。吟行地はさいたま市見沼。句会場は市民会館うらわ605集会室。

◎ 連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ